

[研究ノート]

男女で「女子力」という言葉のとらえ方は異なるか — 「女性における女子力の高さ」の意味内容と性差の検討 —

寺田 悠希・大上 真礼

要旨

「女性における女子力の高さ」の意味内容と男女での認識の相違を検討した。大学生・院生男女8組へのインタビューで収集した項目案を用い、20代～40代の男女315名にウェブ調査を実施した。因子分析の結果、女性の女子力の高さを示す47個の質問項目は女性では「おしゃれ・美の追究」「周囲への配慮」「料理等の家事ができる」「並の身だしなみ」「戦略的立ち回り」の5因子構造、男性は第1因子が「外面への意識」、第4因子は「不衛生ではないこと」となり、その他は女性と同じ因子名に整理された。本研究により、女子力の高さを示す行動や特性はその目的や場面によって異なる因子に含まれることが示され、あわせてSNSと関連した行動も含めた整理ができた。さらに、性別による因子構造の違いは、女性の行動や外見について日常的と見做す範囲や他者へのアピールと考える内容に男女で相違があるためだと示唆され、同じ言葉でも性別により異なる意味で捉えられている可能性が明らかになった。

キーワード

女子力、認知構造、性差、ウェブアンケート調査、流行語

1. 問題と目的

1.1 現代日本における女子力

日本においてここ10年余りで広まった言葉の1つに「女子力」がある。女子力は、2009年にユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされた。『大辞泉 第二版』(2012)によると、女子力は“きらきりと輝いた生き方をしている

女性が持つ力。女性が自らの生き方を演出する力。また、女性が自分の綺麗さ、センスの良さを目立たせて存在を示す力”と多面的に定義されている。そして村岡（2015）は、女子力はコマーシャルリズムの中で受け入れられており若い世代の人々にも使用される語であるとしている。このように女子力は一般的に定着した言葉であるといえる。

昨今、女子力という語は大学生の間で褒め言葉以外にもつつこみやからかに使われる（柘植、2014）とされ、負の意味で用いられている可能性もある（波多江、2015）など、望ましい能力やスキルという意味だけではなくネガティブな意味合いを持つ可能性が指摘されている。菊地（2016）は女子力を構成するのは古典的なジェンダー規範であると考察しているが、女性において、性別役割意識の強さや性別役割分業への肯定度の高さは精神的健康度の低さと結びつくという報告もある（平田ら、2004；山岡・小林、2015）。このことから、女子力は現代人の心の健康や生きやすさを考える上で重要なキーワードだといえる。

1.2 女性にとっての女子力、男性にとっての女子力

女子力は主に女性が持ち合わせるスキルや行動規範であることが想像されるものの、その言葉自体は男女いずれも使用・意識するものである。馬（2019）は女子力という言葉の使用について、女性では「ほめ」の効果のあるものとして同性に使うが、男性が同性に使う場合は冗談として、あるいはふざけて使うことが多いとまとめている。加えて平山（2020）は、男性たちが弱音を吐けない男らしさに縛られて生きてきたこと、女性の配慮や気配りといったケアやサポートは男性たちがそのような男らしさを生き抜く・演じるための資源であると指摘し、「男性中心のこの社会で、男の望むものを率先して提供する『女子力』が女たちに求められ」（p. 122）ていると述べている。このように女子力という日本語のもつ意味合いそのものや、女性における女子力についての認識は、性別やジェンダーにより相違があることが予想される。

1.3 先行研究の問題点と本研究の目的

上記のように、女子力は現代日本人にとって身近である上に精神的健康と

の関連も想定されるが、「女性における女子力」に限っても男女間でそれらの意味合いは必ずしも一致していないと考えられる。そのため、改めて女子力という語の内容を整理し、その認識について性差を検討することには意義がある。

女子力のとらえられ方や女子力の内包する意味は、これまでも調査や整理がなされてきている。波多江（2015）は女子短期大学生に「女子力が高い状態」について問う質問紙調査を行い、仕事ができ他者を受け容れる強さという「受容的自己確立」と男性を意識したしたたかさである「小悪魔的」の2因子17項目をまとめたが、予備調査・本調査ともに女性のみを対象としている。菊地（2016）は男女782名に行ったアンケート調査の結果を踏まえ、女子力を「能力主義的・主体的な新しい要素と、古典的なヘテロセクシュアルな要素の両方を持つジェンダー規範である」（p. 47）としているが、筆者自ら「厳密な手続きに従った実証的調査ではない」（p. 23）と述べているように、講義等で協力が得られた同一県に立地するいくつかの大学に所属する学生のみを対象者としているなど、調査方法に検討の余地が残る。さらに菊地（2016）は、女子力という言葉の内容について探る中で大学生に「女子力という言葉において内面と外見どちらを重視するか」を問い、女性は男性よりも外見を重視する割合が高いことをまとめている。しかし菊地（2016）では、自由記述の分類において持ち物や行動の特徴を内面としたり、外見に「ファッションに興味がない」を含めたりするなど、その分類基準や境界、外見と内面に二分する根拠がやや不明瞭なことが指摘できる。女性の女子力の高さについて男女双方への調査からその内容を整理した上で、認識の違いを整理した実証的研究はなされていないのである。

これを受け本研究では、現代において考えられている「女性における女子力の高さ」においての男女での認識の相違について検討することを目的とする。

なお、調査対象者を2群に分け、群ごとの認識を比較・検討する研究は、喫煙者・非喫煙者のリスク認知（石橋ら、2013）や抑うつ状態の性差（山口ら、2009）などを題材に行われてきている。本研究はこれらに倣い、女子力に関する項目の探索的因子分析¹⁾を性別ごとに行い、それらの相違について

検討する。

2. 方法

2.1 女性における女子力の高さ尺度の項目の作成

質問項目は、首都圏及び北陸地方にある国立・公立・私立大学の学生及び大学院修士課程学生の男女8グループ計29人を対象としたフォーカス・グループ・インタビュー（以下、FGIと表記）を用いた予備調査をもとに作成した。FGIを用いた理由は、参加者同士の相互作用や解放的な反応、相互作用を通じた意見の形成が促進できる（Vaughn, Schumm, & Sinagub, 1996 井上監訳 1999）ためである。FGIではグループ内の性別構成により発話内容や発話形式が異なる可能性があることを想定し、男性のみのグループが2組、男女2人ずつのグループが2組、女性のみのグループが4組となるように選定した。1グループあたりの人数は3人または4人であり、協力者の年齢は 22.34 ± 1.12 歳、調査時間は 76.75 ± 8.80 分であった。この調査は、和洋女子大学人を対象とする研究倫理委員会の承認（課題番号1701）を受けた上で、2017年2月から10月にかけて実施された。

このFGIでの協力者の発言で挙がった「女子力とは何かに関わること」をキーワードとして全て書き出した。それらを心理学・社会学をそれぞれ専門とする筆者ら2人が協議し、項目文の作成、追加と削除を繰り返した。最終的に女性における女子力の高さを構成する項目が抽出された。そしてこれらの質問項目について2018年に大学生・大学院生37名に質問紙（紙媒体）でのプリテストを行い、回答しづらい項目や質問の意図の理解に不便がなかったかのコメントを得、質問文の微修正を行い、47項目の案が作成された。

2.2 調査手続きと倫理的配慮

本研究では、大学生以外を対象とし、かつ地域による回答の偏りが反映されない²⁾ように調査を設計し、2020年1月に日本国内の20～40歳代男女315名を対象にインターネット調査会社を通じて質問し回答を得た。調査では冒頭のページに説明画面（個人情報保護の保護や協力の自由について）が表示され、

同意する場合には回答ページに進めるように設定した。全ての質問に回答した者には、調査会社登録者向けの一定数のポイント（後日換金可能）が付与された。なお本調査は金沢学院大学人を対象とする研究倫理委員会の承認（人研倫 R10021）を得て実施した。

2.3 質問内容

性別・年齢のほか、予備調査で作成した「女性における女子力の高さ尺度」の47項目を使用した。「あなたは『女子力が高い女性』と聞いて、どのような人を思い浮かべますか？」と質問し、1（あてはまらない）から5（あてはまる）の5件法で回答を求めた。調査では、質問内容をよく読んで回答していない協力者のデータを後に除くために、この47項目に加えて「この行では必ず あてはまる を選択してください」というダミー項目を加えて質問を行った。これらの他に、調査では男性性 (Masculinity)・女性性 (Femininity)・人間性 (Humanity) に関する質問 (M-H-F scale; 伊藤、1978) も行った。

精神的な健康度を測る尺度、そして女子力についての認識に関する質問への回答も求めたが、本研究の分析では使用していない。

2.4 分析

回答不備やダミー項目への不良回答者を除いたところ、有効回答数は277名分（男性86名、女性191名、 36.43 ± 9.47 歳）となった。分析にはHAD17（清水、2016）を用いた。

3. 結果

3.1 女性における女子力の高さ尺度の因子構造

最尤法・promax 回転による因子分析を行ったところ、解釈可能性と固有値の減衰状況から両性とも女性における女子力の高さ尺度の項目は5因子（F1-F5）からなると判断された。結果を表1に示す^{3), 4)}。

女性の第1因子は“化粧やファッションについて詳しい”“おしゃれである”

表1 女性における女子力の高さに関する性別ごとの因子分析結果

項目	女性 (N=191)							男性 (N=86)								
	F1	F2	F3	F4	F5	<i>f</i> ²	M	SD	F1	F2	F3	F4	F5	<i>f</i> ²	M	SD
華やかさがある	.86	.17	-.01	-.14	-.09	.74	3.50	1.24	.55	.37	.10	-.16	.10	.73	3.14	1.09
ネイルをしている	.85	-.17	.10	-.10	-.02	.60	3.21	1.35	.63	-.25	.24	.00	.16	.62	2.65	1.07
おしゃれである	.77	.20	-.07	.04	-.04	.75	3.68	1.20	.46	.46	-.06	.13	.02	.76	3.19	1.14
化粧やファッションについて詳しい	.76	-.05	.12	.05	.03	.72	3.54	1.28	.79	.06	.13	-.01	-.08	.74	3.24	1.21
いい匂いがする	.71	.20	.00	-.13	.04	.65	3.52	1.22	.55	.17	.28	.00	-.02	.71	3.20	1.18
美しい	.71	.36	-.05	-.13	-.04	.73	3.42	1.30	.49	.47	.10	-.25	.02	.69	3.22	1.22
ファッションのセンスがある	.67	.17	-.09	.04	.07	.62	3.51	1.20	.66	.15	-.04	.10	.01	.63	3.21	1.10
かわいいために手帳またはお金を惜しまない	.66	-.17	.01	.09	.20	.57	3.40	1.23	.58	-.10	.19	-.11	.24	.61	2.84	1.23
髪を巻いている	.66	-.18	.08	-.12	.27	.59	2.98	1.37	.09	.08	.10	-.13	.71	.64	2.51	1.19
美に対する追究を止めない	.62	.15	.11	-.06	.06	.63	3.55	1.22	.98	-.08	.07	-.02	-.13	.80	3.12	1.19
身だしなみに気を付けている	.53	.12	-.03	.49	-.29	.78	3.95	1.09	.25	.66	-.06	.15	-.07	.75	3.47	1.12
かわいい	.55	.18	.06	-.04	.18	.62	3.38	1.21	.31	.34	.31	-.01	.00	.63	3.19	1.15
料理教室に通う	.53	-.25	.40	-.11	.15	.59	2.94	1.40	.00	.07	.32	-.04	.58	.59	2.76	1.26
大した用事がない日でも化粧をする	.48	-.11	.14	.20	.19	.55	3.29	1.31	.76	-.10	.16	-.06	.07	.67	2.97	1.17
流行に敏感である	.42	-.02	-.08	.18	.36	.53	3.18	1.13	.69	-.23	.00	.28	.18	.75	3.00	1.13
周りがしっかりと見えている	-.25	.90	.02	.12	.02	.74	3.22	1.16	.12	.78	.00	-.16	-.11	.60	3.31	1.08
自己管理ができる	.01	.86	-.03	-.08	-.17	.64	3.29	1.09	-.04	.95	-.23	.00	-.03	.72	3.33	1.03
男性を支えてあげられる	-.02	.81	.06	-.16	.14	.62	3.08	1.11	.24	.33	.29	.01	-.01	.52	3.12	1.07
周囲への気遣いができる	.04	.78	.04	-.01	.03	.68	3.68	1.20	-.06	.77	.21	-.17	-.01	.63	3.45	1.09
周囲への気配りができる	.06	.74	.14	.03	-.05	.74	3.73	1.13	.23	.93	.17	-.03	.10	.81	3.47	1.10
優しい	-.09	.74	.00	.17	.06	.65	3.43	1.17	-.26	.94	-.09	.07	.13	.67	3.55	1.15
包容力がある	-.01	.71	.09	.01	.07	.60	3.16	1.15	.04	.51	.02	.26	.13	.56	3.21	1.11
気が利く	.17	.60	.02	.11	.09	.68	3.66	1.17	.01	.82	-.01	-.02	-.04	.65	3.53	1.07
器用である	-.03	.59	.11	-.05	.21	.45	3.15	1.16	.20	.19	-.02	.41	.06	.46	3.07	.98
言葉遣いが丁寧である	.13	.56	.03	.16	-.17	.55	3.57	1.18	-.01	.87	.00	-.02	-.05	.73	3.43	1.07
部屋が整理整頓されている	.30	.44	.05	.15	-.11	.57	3.49	1.16	.20	.21	.08	.46	.01	.59	3.28	1.13
清潔感を保っている	.25	.38	-.01	.36	-.20	.61	3.79	1.05	-.04	.82	.09	.03	-.04	.72	3.56	1.13
料理ができる	.14	.11	.68	.16	-.14	.79	3.74	1.14	.12	-.02	.67	.45	-.21	.81	3.63	1.23
料理が得意である	.37	.11	.63	.00	-.18	.84	3.60	1.24	.12	.17	.64	.30	-.21	.81	3.51	1.23
家庭的である	.02	.28	.62	.07	-.05	.68	3.51	1.12	-.26	.58	.51	.11	.02	.70	3.58	1.07
お菓子作りが得意である	.26	-.03	.57	.06	.06	.62	3.41	1.25	.26	-.06	.67	-.01	.01	.66	3.27	1.22
裁縫が得意である	.13	.30	.55	-.19	.05	.60	3.51	1.19	.03	.14	.67	.17	.04	.74	3.29	1.25
ティッシュを持っている	-.17	.12	-.01	.75	.00	.57	3.69	1.16	-.17	-.13	.23	.68	.12	.47	3.03	1.09
洗濯ができる	-.30	.23	.09	.68	.00	.56	3.40	1.25	.02	.10	.25	.56	-.16	.49	3.35	1.19
化粧をしている	.26	-.14	-.05	.62	.10	.50	3.66	1.15	.80	-.12	.15	-.16	.15	.75	2.98	1.16
ばんそうこうを持っている	-.15	.18	.18	.47	.19	.44	3.45	1.23	-.10	-.24	.47	.38	.23	.41	2.94	1.18
キャビキャビしている	-.01	.04	-.01	-.21	.78	.58	2.52	1.24	.07	.03	.15	-.19	.74	.66	2.33	1.10
SNS 映えるものを好む	.20	-.10	-.03	-.02	.73	.67	2.84	1.22	.17	-.03	-.13	.03	.75	.67	2.53	1.20
声のトーンが高い	-.21	.23	-.06	.08	.72	.47	2.80	1.23	-.01	.06	-.10	.03	.82	.65	2.41	.95
SNS にアップする目的で料理をする	.20	-.18	.03	-.07	.68	.60	2.49	1.31	-.11	-.06	.01	.06	.91	.74	2.30	1.11
あざとい	.12	.00	.08	-.14	.65	.54	2.73	1.24	.13	-.06	-.14	.01	.66	.49	2.34	1.09
パンケーキを好む	-.15	-.26	.05	.35	.64	.45	2.86	1.28	-.23	-.01	.17	-.19	.76	.57	2.38	1.04
世渡り上手である	.14	.28	-.15	.05	.54	.51	2.98	1.21	.39	-.02	.04	.20	.31	.50	2.74	1.10
人が見ていることを意識して行動する	.15	.15	-.23	.30	.45	.47	3.28	1.21	.62	.17	-.30	.05	.15	.52	2.98	1.08
自ら進んで料理を取り分ける	-.06	-.14	.41	.11	.44	.58	3.18	1.19	.05	.19	.47	.06	.22	.59	3.03	1.21
男の人をほめるのが上手い	.18	.42	-.15	-.08	.43	.48	3.05	1.16	.38	.23	-.21	.17	.41	.69	2.78	1.04
かわいいものを持っている	.26	-.08	.11	.20	.33	.40	3.29	1.24	.36	-.09	.39	.00	.24	.60	2.90	1.18
因子寄与率 (%)	16.37 13.97 10.31 8.92 8.81							17.20 14.35 11.54 7.72 10.88								
因子間相関	F2 .59							F2 .58								
	F3 .61 .47							F3 .56 .48								
	F4 .46 .57 .37							F4 .48 .43 .35								
	F5 .53 .18 .31 .18							F5 .62 .18 .35 .30								

などを含むため、「おしゃれ・美の追求」と命名した。第2因子は“周りがしっかりと見えている”“周囲への気配りができる”といった項目が含まれるため「周囲への配慮」因子とした。第3の因子は料理や裁縫、お菓子作りなどが得意であるという項目を含むため「料理等の家事ができる」とした。第4因子「並の身だしなみ」には、洗濯や衛生用品の所持、化粧という行動が一つの因子としてまとめられた。第5因子は“SNS 映えするものを好む”“あざとい”などを含むため「戦略的立ち回り」と名付けた。

男性の第1因子には“化粧やファッションについて詳しい”のほか、“人が見ていることを意識して行動する”も含まれていることから「外面への意識」因子とした。第2因子、第3因子および第5因子はそれぞれほぼ女性と同様であったため「周囲への配慮」、「料理等の家事ができる」、「戦略的立ち回り」と名付けた。第4因子は“ティッシュを持っている”“洗濯ができる”のほか“部屋が整理整頓されている”を含むことから「不衛生ではないこと」と命名した。

3.2 信頼性・妥当性の検討

尺度の信頼性の1つの指標となる内的一貫性を検討するため、各因子の Cronbach の α 係数を算出したところ、5つの因子の α 係数は、女性では .95、.94、.91、.79、.89、男性は .95、.95、.90、.76、.92 となった。それぞれ項目数が少ない第4因子は .80 を下回ったものの、一定程度の内的一貫性をもつことが確かめられた。また、M-H-F scale との関連から尺度の妥当性を検討するため、女性における女子力についての各尺度得点と M-H-F scale（伊藤、1978）の M 得点・H 得点・F 得点の相関係数を求めた。結果、F 得点と女子力の尺度得点の相関係数は、女性では .30、.36、.19、.21、.30、男性では .49、.53、.39、.35、.37 となり、いずれも 1% 水準で有意となった。よって、女子力は女性において望ましいとされる特性や行動様式を表すといえ、本尺度は一定の基準関連妥当性⁵⁾を持つと考えられた。

4. 考察

探索的因子分析の結果、女性における女子力の高さは両性ととも5因子にまとめられたが、性別によって因子構造に異なる点があることもわかった。

4.1 女子力の意味内容についての新しい視点からの整理

本研究において、女性の第1因子「おしゃれ・美の追究」そして男性の第1因子「外面への意識」、および男女の第5因子「戦略的立ち回り」については、男性を意識したしたたかさを意味する波多江（2015）の「小悪魔的」因子に含まれる内容と類似していると考えられた。このうち、外見に関する項目が多かったのが「おしゃれ・美の追究」であり、「戦略的立ち回り」には具体的な行動や、内面、SNSを活用した行動が含まれるという点で波多江（2015）との違いが見られた。なお、第5因子「戦略的立ち回り」に含まれる各項目の平均値は3を下回ったものが多く、他の因子と比べると「女子力の高い女性」の特徴として挙げられる傾向は高くはないといえる。

内面に関する項目が多く含まれたのは「周囲への配慮」因子と「料理などの家事ができる」因子であった。前者については波多江（2015）の「受容的自己確立」と同様の意味を含み、仕事等の社会的場面で好ましい行動様式を指すと考えられるものの、女性においては“男性を支えてあげられる”が含まれたことは注目される。さらに、第3因子は「料理などの家事ができる」であることから、従来の性別役割分業意識が表れた因子である可能性がある。

女性の第4因子「並の身だしなみ」には“化粧をしている”が含まれており、外見的要素を主とした第1因子「おしゃれ・美の追究」に含まれていないことは注目に値する。ここから、女性にとって化粧は特別なことでなく一種のエチケットとして行うという意識があるとも考えられる。

以上のように、本研究では女性における女子力の高さに関する内容について、外見に関する内容でも行動の目的や基準によって異なる因子に含まれること、内面についてもそれが発揮される社会的場面によって異なる因子に含まれること、近年発達している SNS と関連した行動として認知されていることが整理できた。

4.2 女性における女子力の高さに関する因子構造の性差

以下では、性別により異なる因子に入った項目のうち、両性で、ある1つの因子に対してのみ因子負荷量が0.4以上であったものについて考察する。まず、女性の第1因子「おしゃれ・美の追究」に入った“髪を巻いている”と“料理教室に通っている”は、男性では第5因子「戦略的立ち回り」に含まれていた。女性にとってはこれら2項目が自分磨きのための努力の一環とされているのに対し、男性からはファッションへのこだわりやネイルをしていることとは異なり、異性からの受けや好感度を高めることを狙って行っている行動とみられていることが示唆された。

また、“身だしなみに気を付けている”が女性では第1因子「おしゃれ・美の追究」、男性では第2因子「周囲への配慮」であった。これは「身だしなみ」という言葉への認識として、女性はおしゃれとして捉えているのに対して男性は他者に見せられる程度であれば十分と考えている可能性と、男女で女性の「身だしなみ」に対する基準が異なる可能性の両方が考えられる。“器用である”“部屋が整理整頓されている”については女性では第2因子「周囲への配慮」であり、男性では第4因子「不衛生ではないこと」であった。女性はこれらが社会あるいは仕事場面の中でうまくやっていくための他者を想定した行動であると認識されているのに対し、男性は自分自身のための行動だという認識の相違があると考えられる。このような身だしなみに関する認識やその目的の違いが、第4因子（女性は「並の身だしなみ」、男性は「不衛生ではないこと」）に含まれる項目が大きく異なったこと背景として想定される。

女性の第2因子「周囲への配慮」に含まれる“男性を支えてあげられる”は、男性ではいずれの因子への負荷量も小さかった。ただし、男女ともこの項目への回答の平均値は3.1前後であったことから、女子力の高い女性の行動として両性から一定程度認識はされているといえる。女性は社会的な振る舞いの一環での女子力として男性を立てようとしているのに対し、男性はある種の女子力とは考えているものの、男性を支えるという女性の行動に対して比較的無自覚であり配慮行動とはそれほどとらえていない可能性がある。

さらに、女性の第4因子「並の身だしなみ」に含まれていた“化粧をしてい

る”は、男性では第1因子「外面への意識」に含まれていた。先述の通り、女性にとって化粧は日常的な行動といえること、あるいは美を究めたり人から好感度を持たれたりするために行うとは考えられていないことがうかがえる。

女性の第5因子「戦略的立ち回り」に含まれていた“自ら進んで料理を取り分ける”は男性の第3因子「料理等の家事ができる」に含まれる項目となっていた。女性はこの行動を他者へのアピールと見做しているのに対し、男性は家事の一種として捉えていることが分かる。そして、同じく女性において第5因子に含まれた“人が見ていることを意識して行動する”は、男性では第1因子「外面への意識」に含まれていた。男性としては外見を意識し美しくすることが、女性においてはあざとく抜け目なくふるまうことと似た意味として考えられる傾向にあったといえるが、なぜこういった相違がみられたのかについてさらなる検討が必要である。

以上から、男女によって女性の行動や外見について日常的と見做す範囲や、他者へのアピールと考える行動の内容が異なることが因子構造の違いに表れたと考えられる。

4.3 本研究の意義と今後の展望

本研究では「女性における女子力の高さ」の因子構造の性差について探索的因子分析を行った。これにより、先行研究で報告されてきた波多江(2015)による「受容的自己確立」「小悪魔的」の2因子への分類や、菊地(2016)の外見・内面といった整理の仕方とは異なり、(女子力を)身につける・発揮するという目的や場面に応じて女性の女子力の分類ができる可能性を示すことができた。サンプルサイズや対象とした年代が限られてはいるが、女子力の意味内容の認識における性別による相違が検討できたことで、現代では両性の中で女子力という言葉が使われるようになったものの、性別役割意識もまた両性に根付いている可能性や、化粧のように同じ女性の行動に対し、その行動が日常的にどの程度特別な意味をもつかということや、どのような目的でその行動をしているのかといった考え方に性差があることを実証的に明らかにできた。

また本研究の意義として、日常語として浸透した女子力の語について、同

じ行動や特性を「女子力が高い」と表現していても、性別により異なる意味を持ってとらえている場合があることを見出せた点が挙げられる。例えば女性が「髪を巻いている」ことは女子力の高さを反映していると表現できるが、女性にとってはおしゃれという意味、男性にとってはモテや好感度アップのための戦略という意味といったようにニュアンスが異なる。本研究を通じて、人々が女子力という言葉を用いて他者とコミュニケーションをとる際に齟齬が生じる可能性があることが広く認知され、情報や意思の発信・受信ができるようになることが期待される。今後の研究においては、本研究により明らかになった女子力の意味内容のとらえ方をふまえ、広告や日常会話といった具体的な場面で女子力の語が出てきた場合に発信者が意図したイメージやニュアンスを受信者がその通りに受け取っているかを検証する等の調査も求められる。

【付記】

本研究の調査の一部は、金沢学院大学・金沢学院短期大学個人研究費の補助を受けて実施した。また、本研究の FGI にご協力いただいた参加者の皆さま、プリテストにご協力いただいた A 大学の学生の皆さまに感謝申し上げます。

【注】

- 1) 因子分析とは、多くの尺度項目で測定した変数の背景にある少数の因子（各項目の得点を左右するもとなる構成概念の次元）を探るための分析手法である。尺度項目がいくつの因子で構成されるか等の仮説を予め設定せず、いくつのどのような因子からなるのかを探索するのが探索的因子分析である（南風原、2002；清水・荘島、2017）。
- 2) 首都圏（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）、愛知県、関西（京都府・大阪府・兵庫県）の三大都市圏それぞれと、それ以外の地域を3分割したそれぞれの計6ブロックでの人口比に応じて回答者数を設定した。
- 3) 両性ともに F1 から F5 の列の値は因子負荷量（各変数と各因子の相関係数）を表している。 h^2 は共通性（各項目の値の分散のうち、F1 から F5 の因子によるものとして説明できる割合）、 M は各項目の平均値、 SD は標準偏差を示している。因子寄与率は尺度項目で測られた全変数に対して各因子がどの程度の割合で影響を与えているのかの指標である。
- 4) 男性に関しては女性と比較しやすいよう第4因子と第5因子の順番を定めたため、因子寄与率は第5因子のほうが大きくなっている。

- 5) 妥当性 (測定したい尺度がその概念をどのくらい適切に測れているかの指標) の一つで、「何らかの外的基準との関連から推測する妥当性」(大竹、2020) のこと。本研究では外的基準として M-H-F scale を採用した。

[参考文献]

- 南風原朝和 (2002) 『心理統計学の基礎——統合的理解のために——』有斐閣, 317-363.
- 波多江俊介 (2015) 女性商業誌における特定ワードイメージに関する考察『熊本学園商学論集』19, 23-33.
- 平田伸子・平原 (小原) 裕子・加未恒壽・豊増功次 (2004) 働く女性の「ジェンダー・ストレス」要因に関する数量的分析『九州大学医学部保健学科紀要』4, 57-66.
- 平山亮 (2020) 「男ゆえの困難」の何が問題か——介護する男たちの語られ方と、そこで見失われているものを考える, 信田さよ子 (編) 『女性の生きづらさ その痛みを語る』日本評論社, 116-123.
- 石橋千佳・堀口逸子・丸井英二・稲田英一 (2013) 喫煙者におけるリスク認知構造の性差の特徴——Web 調査による探索的因子分析——『日本健康教育学会誌』21 (4), 283-293.
- 伊藤裕子 (1978) 性役割の評価に関する研究『教育心理学研究』26, 1-11.
- 菊地夏野 (2016) 「女子力」とポストフェミニズム——大学生の「女子力」使用実態アンケート調査から——『名古屋市立大学大学院人間文化研究科「人間文化研究」』25, 19-48.
- 馬雯雯 (2019) ジェンダーに関わる表現「女子力」についての考察——「女子力」を巡る記述における言語標識を中心に——『ことば』40, 90-105.
- 村岡貴子 (2015) 第1章 日本語表現に潜むジェンダー, 牟田和恵 (編) 『改訂版 ジェンダー・スタディーズ——女性学・男性学を学ぶ——』大阪大学出版会, 2-17.
- 大竹恵子 (2020) 7 調査法2——尺度作成の基礎と調査法の実際——, 三浦麻子 (編) 『心理学研究法』放送大学教育振興会, 97-113.
- 清水裕士 (2016) フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案『メディア・情報・コミュニケーション研究』1, 59-73.
- 清水裕士・荘島宏二郎 (2017) 『社会心理学のための統計学——心理尺度の構成と分析——』誠信書房, 20-39.
- 小学館 大辞泉編集部 (2012) 『大辞泉 第二版 上巻あーす』小学館.
- 柘植結月 (2014) 大学生が考える「女子力」とは? ——男女間の認識の相違——『名古屋大学高等教育研究センター 名古屋大学学生論文コンテスト』1-10.
- VAUGHN, SCHUMM, & SINAGUB (1996) *Focus Group Interviews in Education and Psychology*. Thousand Oaks: Sage Publications (ヴォーン, S., シューム, J. S., & シナグブ, J. 井上理 (監訳) (1999) 『グループ・インタビューの技法』慶應義塾大学出版会).
- 山口実徳・村山侑里・恩田林子・三ツ橋実千代・山崎千穂・中澤滯・小山洋 (2009) 労働者における抑うつ状態の因子構造の性差——うつスクリーニング質問紙「こころのチェックシート」の因子分析——『北関東医学』59 (3), 231-240.

男女で「女子力」という言葉のとらえ方は異なるか（寺田 悠希・大上 真礼）

山岡順太郎・小林美樹（2015）労働者のメンタルヘルスと職場環境に関する実証分析『神戸大学大学院経済学研究科 Discussion Paper』1503.

（てらだ ゆうき・東京大学大学院博士後期課程、
おおうえ まあや・金沢学院大学講師）